

調査結果の概要

調査結果のポイント

1. 前年度と比較した現在の暮らし向きについて、
《悪くなった》は8.1ポイント増の43.4% (P2 図表1-2)
2. 暮らし向きが《悪くなった》人のうち、最多の理由を占める
「日常の生活費が増えたため」は10.4ポイント増の82.0%
(P3 図表1-3)
3. 今後の暮らし向きの見通しについて、
《暗い》は3.7ポイント増の42.0% (P3 図表1-4)
4. 生活重要度について、
「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」が5年連続で第1位 (P6 図表3-1)
5. 県行政への要望について、
「治安対策」が5.2ポイント増の49.4%で第1位 (P8 図表4)

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
※令和5年度 (n=1,241)、令和4年度 (n=1,404)
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
例：「たいへん満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせたものを《満足している》と表現している。
また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 くらし全般(問1から問5)

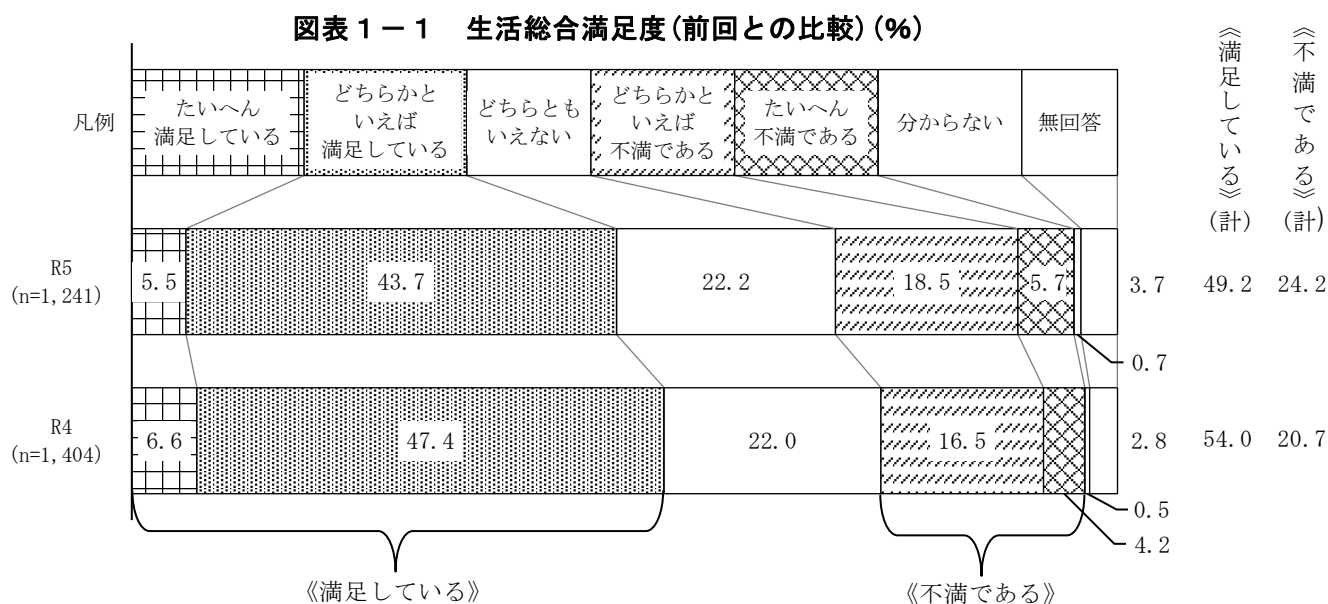
▼生活総合満足度

現在の生活全般について、どの程度満足しているか尋ねた。

「たいへん満足している」(5.5%)と「どちらかといえば満足している」(43.7%)を合わせた《満足している》は49.2%で、前年度より4.8ポイント減(54.0%→49.2%)となった。

一方、「たいへん不満である」(5.7%)と「どちらかといえば不満である」(18.5%)を合わせた《不満である》は24.2%で、前年度より3.5ポイント増(20.7%→24.2%)となった。

[図表1-1]



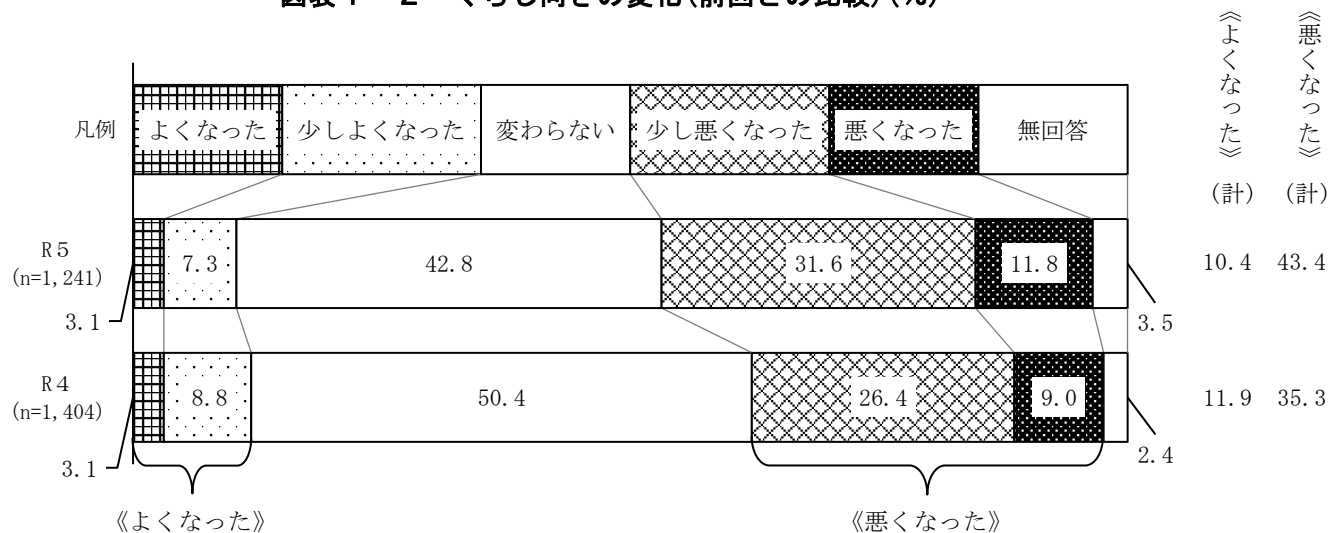
▼くらし向きの変化

前年度と比較した現在のくらし向きについて尋ねた。

「よくなった」(3.1%)と「少しよくなった」(7.3%)を合わせた《よくなった》は10.4%で、前年度より1.5ポイント減(11.9%→10.4%)となった。

一方、「悪くなった」(11.8%)と「少し悪くなった」(31.6%)を合わせた《悪くなった》は43.4%で、前年度より8.1ポイント増(35.3%→43.4%)となった。 [図表1-2]

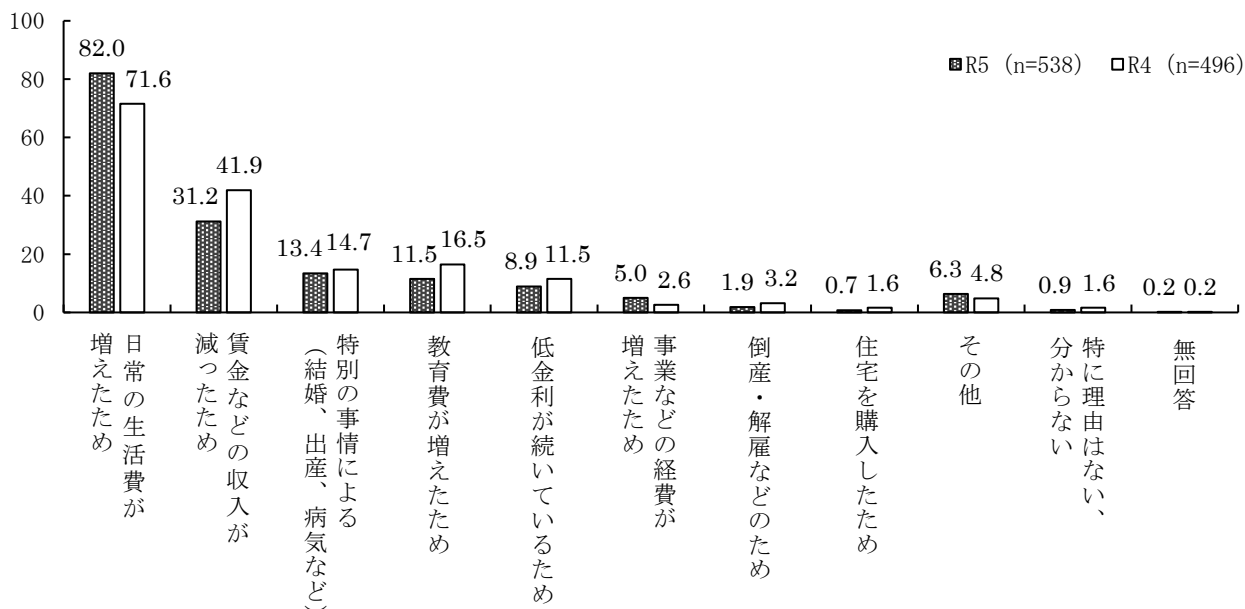
図表1-2 くらし向きの変化(前回との比較)(%)



暮らし向きが《悪くなった》と答えた538人にその理由を複数回答で尋ねたところ、「日常の生活費が増えたため」が82.0%と、前年度より10.4ポイント増(71.6%→82.0%)で最も多く、次いで「賃金などの収入が減ったため」が31.2%であった。

前年度と比較して増減幅が最も大きかったのは、「賃金などの収入が減ったため」で10.7ポイント減(41.9%→31.2%)となった。〔図表1-3〕

図表1-3 暮らし向きが悪くなった理由(前回との比較)(複数回答)(%)



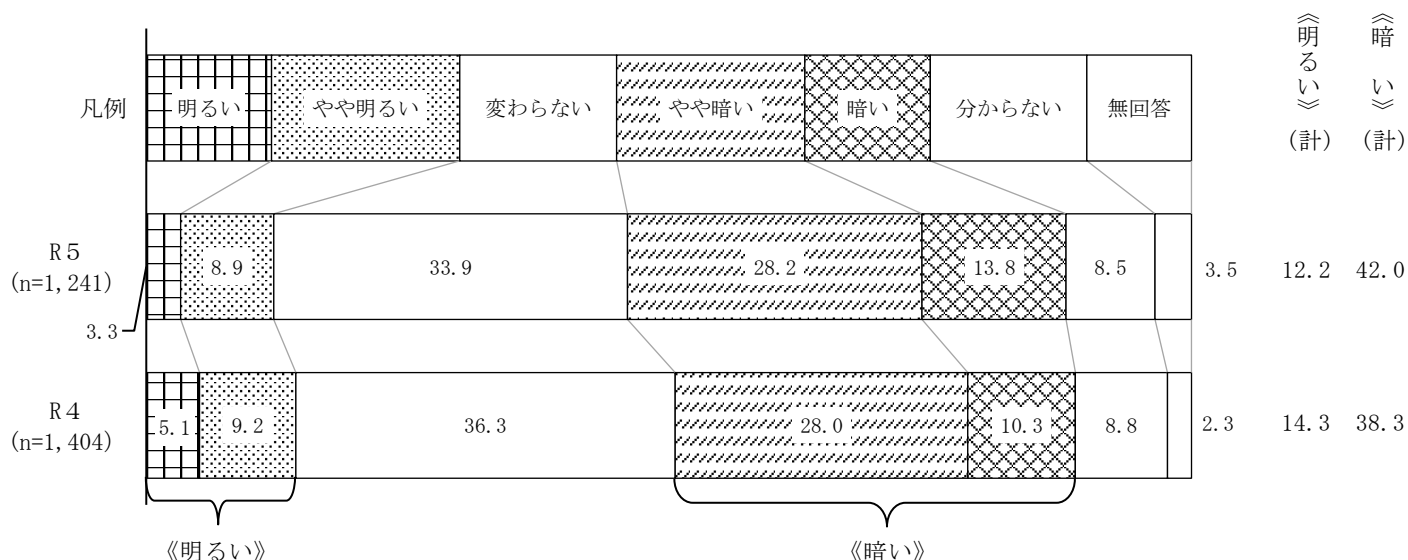
▼今後の暮らし向きの見通し

今後の暮らし向きの見通しを尋ねた。

「明るい」(3.3%)と「やや明るい」(8.9%)を合わせた《明るい》は12.2%で、前年度より2.1ポイント減(14.3%→12.2%)となった。

一方、「暗い」(13.8%)と「やや暗い」(28.2%)を合わせた《暗い》は42.0%で、前年度より3.7ポイント増(38.3%→42.0%)となった。〔図表1-4〕

図表1-4 今後の暮らし向きの見通し(前回との比較)(%)



▼地域の住みよさ

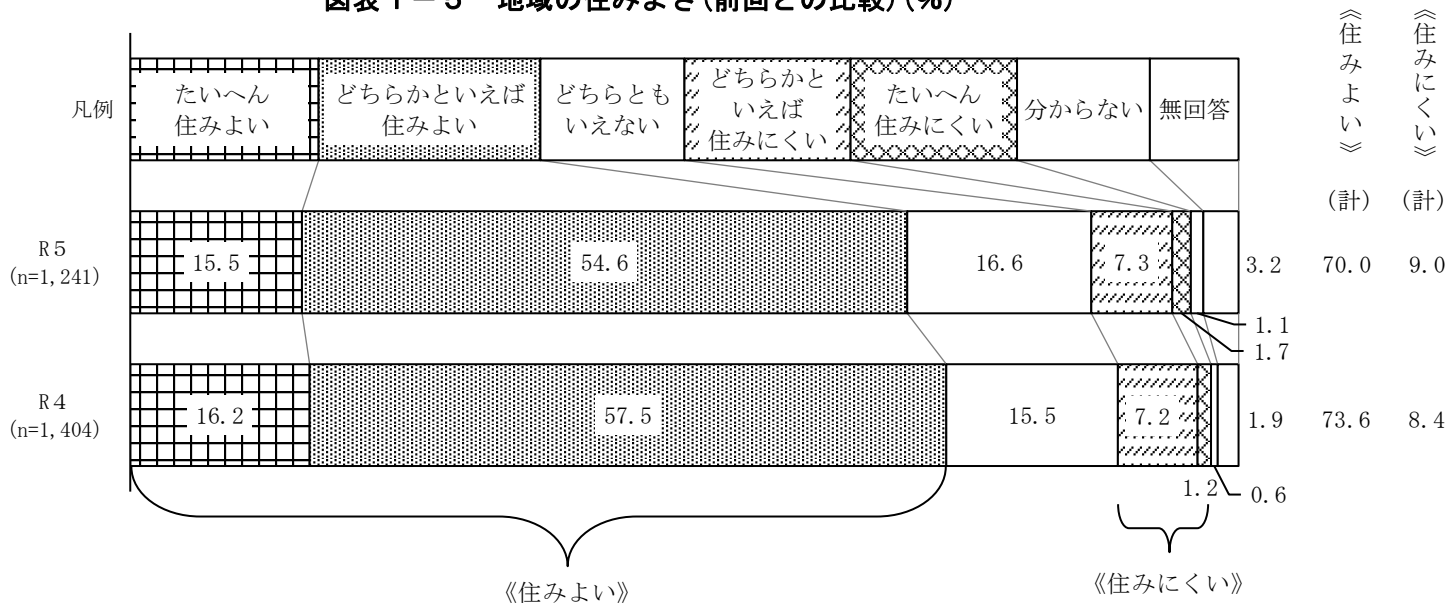
現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねた。

「たいへん住みよい」（15.5%）と「どちらかといえば住みよい」（54.6%）を合わせた《住みよい》は70.0%で、前年度より3.6ポイント減（73.6%→70.0%）となった。

一方、「たいへん住みにくい」（1.7%）と「どちらかといえば住みにくい」（7.3%）を合わせた《住みにくい》は9.0%で、前年度より0.6ポイント増（8.4%→9.0%）となった。

〔図表1-5〕

図表1-5 地域の住みよさ(前回との比較)(%)

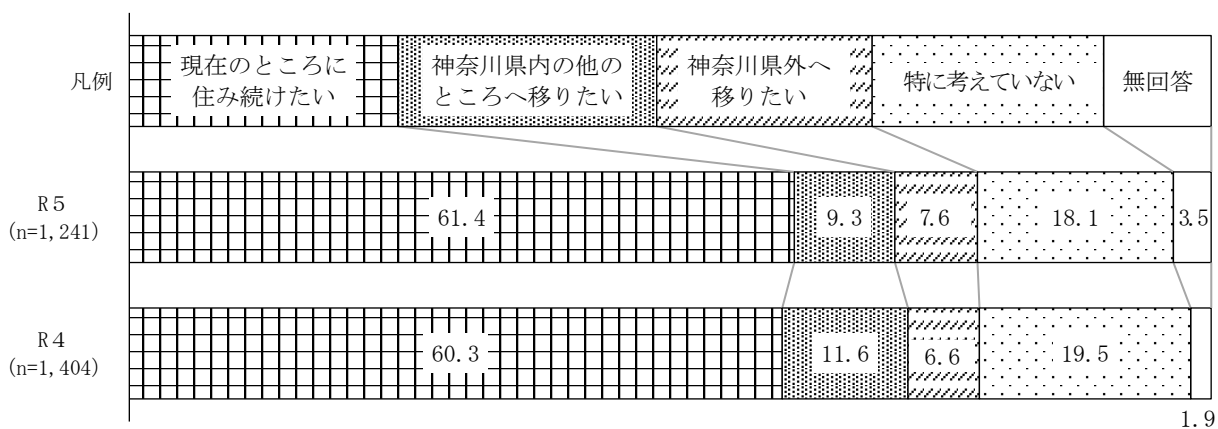


▼定住意向

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」が61.4%で最も多く、「神奈川県外へ移りたい」は7.6%で最も少なかった。

前年度と比較すると、「現在のところに住み続けたい」は1.1ポイント増（60.3%→61.4%）となり、「神奈川県外へ移りたい」は1.0ポイント増（6.6%→7.6%）となった。〔図表1-6〕

図表1-6 定住意向(前回との比較)(%)



2 生活意識(問6)

県民の様々な生活意識や態度を把握するために、32の項目を提示して「そう思う」と「そう思わない」で尋ねた。

「そう思う」と「そう思わない」の上位5項目の結果を表にすると、〔図表2〕のとおりとなった。

前年度と比較すると、「そう思う」では、「ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている」(新規)が89.4%で、第1位となった。

一方、「そう思わない」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が0.3ポイント減(88.0%→87.7%)したものの、前年度に続いて第1位となった。

図表2 「そう思う」、「そう思わない」の上位5項目 (n=1,241)

順位	「そう思う」 ()内は令和4年度の結果(n=1,404)	順位	「そう思わない」 ()内は令和4年度の結果(n=1,404)
1	ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている 89.4% (新規)	1	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ 87.7% (1位88.0%)
2	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ 86.4% (3位90.7%)	2	今後10年くらいの間、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている 80.9% (2位81.6%)
3	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ 83.7% (4位86.8%)	3	今後10年くらいの間、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている 79.9% (3位81.5%)
4	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい 82.1% (5位86.4%)	4	今後10年くらいの間、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている 76.6% (4位75.9%)
5	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ 77.3% (6位78.6%)	5	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている 74.6% (5位75.5%)

3 くらしの満足度(問7)

身近な生活に関する40項目について、それぞれの「重要度」及び「満足度」を尋ねた。

なお、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》、「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせたものを《満たされている》、「ほとんど満たされていない」と「あまり満たされていない」を合わせたものを《満たされていない》と表している。

▼生活重要度

《重要である》の上位10項目の結果を表にすると、〔図表3-1〕のとおりとなった。

前年度と比較すると、《重要である》では、「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」が、前年度に続いて第1位(94.4%)となった。

図表3-1 《重要である》の上位10項目 (n=1,241)

順位	《重要である》 ()内は令和4年度の結果(n=1,404)	
1	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること	94.4% (1位94.4%)
2	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること	92.7% (2位94.3%)
3	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	91.7% (3位92.0%)
4	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること	90.4% (4位91.5%)
5	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと	90.0% (5位91.0%)
6	安全で安心な消費生活が送れること	88.4% (新規)
7	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	87.5% (6位90.4%)
8	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること	86.8% (7位90.3%)
9	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること	83.1% (8位84.9%)
10	住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること	82.4% (9位83.0%)

▼生活満足度

《満たされている》と《満たされていない》の上位5項目の結果を表にすると、〔図表3-2〕のおりとなった。

前年度と比較すると、《満たされている》では、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」が0.2ポイント減(50.6%→50.4%)したものの、前年度に続いて第1位となった。

一方、《満たされていない》では、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が3.9ポイント減(44.4%→40.5%)したものの、前年度に続いて第1位となった。

図表3-2 《満たされている》、《満たされていない》の上位5項目 (n=1,241)

順位	《満たされている》 ()内は令和4年度の結果(n=1,404)	順位	《満たされていない》 ()内は令和4年度の結果(n=1,404)
1	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと 50.4% (1位50.6%)	1	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること 40.5% (1位44.4%)
2	身近に親しめるみどりや水辺があること 48.2% (3位47.3%)	2	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること 35.0% (2位35.5%)
3	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること 46.2% (5位43.7%)	3	太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること 34.9% (新規)
4	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること 45.0% (4位47.0%)	4	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮できること 34.6% (5位33.3%)
5	安心して利用できる公園が整備されていること 37.8% (6位38.2%)	5	道路の渋滞がないなど、自動車ですべての県内各地へスムーズに移動できること 32.6% (3位34.3%)
		5	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること 32.6% (6位32.8%)

4 県行政への要望(問8)

県行政を進めていくうえで力を入れて取り組んでほしい分野について、30項目を挙げて尋ねたところ、上位10項目は〔図表4〕のとおりとなった。

前年度と比較すると、「治安対策」は5.2ポイントの増(44.2%→49.4%)で、前年度の第2位から第1位となった。また、上位10項目の中で前年度と比較して増減幅が最も大きかったのも、「治安対策」となった。

図表4 県行政への要望 上位10項目(複数回答) (n=1,241)

順位	力を入れて取り組んでほしい分野 ()内は令和4年度の結果(n=1,404)
1	治安対策 49.4% (2位44.2%)
2	防災対策 47.2% (1位47.4%)
3	医療体制の整備 36.3% (3位39.0%)
4	高齢者の福祉対策 33.9% (5位30.8%)
5	子育て支援 29.8% (4位34.5%)
6	地球温暖化の防止 22.6% (7位21.3%)
7	公共交通の利便性を高める 19.4% (10位18.2%)
8	道路やまちなみの整備 18.5% (8位19.0%)
9	学校教育の充実 18.0% (6位21.9%)
10	交通安全対策 17.0% (11位16.3%)